

第14回テーマ

「ありがとう」の連続を

夕方、横綱「朝青龍」が突然の引退を発表した、というニュースを耳にした。噂されていたので驚きはなかったが、やはり一抹の寂しさがある。後味の悪いニュースで、余計に外の寒さが身にしみた。

帰宅してもテレビでは「朝青龍引退ニュース」ばかりが報道されていたのだが、その中のコメントで元横綱審議会であった内館氏の言葉が入ってきた。「これからの人生、どんな職業についても敬意を払う事を忘れずに…」といった内容である。敬意を払うという言葉は簡単なようで意識し、実践していくのはかなり難しい。「気持ちの持ち方」としては「感謝の気持ち」と同等の意味と解釈できると思うが、実践となれば果たしてどうだろう？自分はそれが出来ているのだろうか？と振り返り、考えてしまった。

ただ「強ければいい」とか「仕事とプライベートは別物だ」という考えではいけない、という事だろうが、ビジネスシーンで考えれば「売上・利益さえ上げれば良い」とか「仕事以外の付き合いとか人間関係は別物だ」といった形で言いかえる事ができると思う。もちろんビジネスでも答えはNOである。前述した通り、ようは「気持ちの持ち方」だ。外面は良くても心の中で「舌を出す」事はダメなのである。本当の意味で周りに支えられている「ありがたい」と思う気持ちこそが、まさに職業に対する「敬意」なのだろう。

良く教育研修で「感謝の気持ちを持って」という話をするケースがある。残念ながらそれがどこまで浸透し、実行されているかは確認できていない。もちろん恥ずかしくて感謝を上手に表現できない人もいるだろう。そういう時は「ありがとう」という言葉を良く使う事をすすめている。お世辞ではなく、感謝の気持ちを持って「ありがとう」と言う事はそれほど難しくはない。気持ちが変われば行動も変わる。後ろ向きでストレスを感じていた事がプラスに、前向きに考える事ができるはず。また、知らないうちに協力者が増え、豊かな人間関係が構築できると思う。

ぜひ、組織の中で「ありがとう」の励行を行う事で、職場全体に明るさが戻り、前向きな風土が形成されてくるのではないだろうか。